

令和5年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会  
第1回定例会会議録

1 開催日時 令和5年8月10日(木)午後1時30分から午後1時51分まで

2 開催場所 小牧岩倉エコルセンター 2階研修室

3 出席委員

井上 功	委員長	入江 慎介	副委員長	野々川好昭	委員
栗原 賢	委員	河田久美子	委員	仲村 節	委員
井戸田通敬	委員	高木 進	委員	前田 悦子	委員
松井 義夫	委員	松井 隆明	委員	稲垣 淳郎	委員
橋本 秀明	委員	河村 典久	委員	(学識経験者)	

欠席委員

鈴木 尚紀	委員	片岡 和浩	委員	隅田 昌輝	委員
-------	----	-------	----	-------	----

事務局

永井 浩仁	事務局長	熊崎 礎功	業務課長
櫻井 晃生	総務課長	服部 和宏	業務課長補佐
稲垣 徹	業務課施設管理係長	水谷 正樹	総務課庶務係専門員

4 議題

- (1) 令和5年上半期ごみ溶融炉運転状況について
- (2) 令和5年冬季、春季気象調査について
- (3) 調整池からの排水調査について

5 会議資料

- ・令和5年上半期ごみ溶融炉運転状況
- ・気象調査(通年観測・特別観測)報告書
- ・調整池からの排水調査報告書

6 議事内容

櫻井総務課長：本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。只今から「令和5年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第1回定例会」を開会いたします。本日の出席委員は、14名であります。環境センター管理委員会要綱第5条の規定により、会議は成立いたします。次第に従いまして、委員長からごあいさつをいただきたいと思います

います。

井上委員長：あいさつ

櫻井総務課長：ありがとうございました。これ以降の議事の取り回しにつきましては、委員長をお願いいたします。

井上委員長：それでは、議事に入ります。議題1「令和5年上半期ごみ溶融炉運転状況について」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

熊崎業務課長：令和5年上半期ごみ溶融炉運転状況について説明させていただきます。1ページをご覧ください。令和5年1月から6月までのごみ溶融炉運転状況について説明いたします。1号炉につきましては、1月7日から3月20日までの73日間のほか124日間の運転を行いました。2号炉につきましては、1月5日から1月30日までの26日間のほか117日間の運転を行いました。1号炉・2号炉並列運転日数につきましては合計87日間でした。

続きまして、2ページの運転実績です。1月から6月までの上半期合計は搬入日数が153日、可燃ごみ量18,911.08t、破碎残渣物が1,873.21tで、搬入量合計が20,784.29t、大塊スラグは277.10tでした。溶融処理量につきましては、1号炉の日数124日、溶融量10,971.89t、2号炉の日数117日、溶融量10,376.38t、合計日数241日、合計溶融量21,348.27tでした。また、スラグ、メタル排出量合計は2,136.80t、ごみ汚水量の188.53tについては、燃焼室へ噴霧処理を行い処理し、ピット放水量等については197.35tです。搬入量合計を令和4年の上半期と比較しますと、率で-2.95%、量では632.33tの減少でした。

3ページをご覧ください。令和5年上半期の環境センター調査概要についてです。(1)目的に変更はありません。(2)測定地点に変更はありません。(3)測定機関と測定月の①排ガス濃度(手分析)においては、令和5年1月から3月までの測定機関は株式会社東海分析化学研究所でございましたが、令和5年4月からの測定機関は一般財団法人岐阜県公衆衛生検査センターに変更になっております。自動連続測定に変更はありません。

②排水及び③騒音・振動においては、それぞれ令和5年1月の測定機関は株式会社東海分析化学研究所でございましたが、令和5年4月の測定

機関は一般財団法人岐阜県公衆衛生検査センターが行っております。

4 ページの（4）測定項目に変更はありません。

5 ページの排ガス濃度測定結果（手分析）をご覧ください。1号炉は1月、2月、3月、4月と6月、2号炉は1月、3月、4月と5月に測定を行い、測定結果につきましては表中に記載された通りで協定基準値以下の値でした。次に、6 ページの排ガス濃度測定結果の自動連続測定についても、表中に記載された通りで協定基準値以下の値でした。2号溶解炉の2月については休炉中になります。

次に、7 ページ及び8 ページの場内からの雨水排水測定結果について報告します。測定日は1月27日と4月7日です。両日ともに、1のカドミウム及びその化合物から1,4ジオキサンまでの28項目において協定基準値以下の値でした。

次に、9 ページの騒音・振動測定結果について報告します。1 騒音測定結果について、昼間の時間帯で説明させていただきます。1月26日からの24時間の測定結果にて、測定地点①で42dB、②44dB、③46dB、④43dB、⑤48dB、⑥48dBでした。以下、夕、夜間、朝の時間帯で測定した結果は表中に記載された通りで、4月10日からの測定結果と合わせ、協定基準値以下の値でした。

2 振動測定の結果は、昼間及び夜間の時間帯に測定を行い、1月26日測定と4月10日の測定において、測定地点①から⑥の全て30dB未満であり、協定基準値以下の値でした。

10 ページは、各種測定箇所の位置図です。

続きまして11 ページをご覧ください。上段のグラフは、上半期の可燃ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフです。令和5年が18,911.08tで令和4年より512.69t、率で2.64%の減少になりました。下段のグラフは、総ごみの搬入量の実績と前年同月比のグラフです。令和5年が21,035.35tで令和4年より663.09t、率で3.06%の減少になりました。

12 ページからは資料となります。以上で報告を終わります。

井上委員長：事務局の説明は終わりました。これについて、質問はありませんか。

井上委員長：なければ、議題1については終了します。続きまして、議題2「令和5年冬季、春季気象調査について」及び議題3「調整池からの排水調査について」を一括議題といたします。事務局の説明をお願いいた

します。

服部課長補佐：資料2 気象調査通年観測報告書と特別観測報告書をご覧ください。1 ページ、第1章調査概要、1-1 目的、1-2 調査地点につきましては変更ありません。1-3 調査期間、通年冬季調査期間は令和4年12月1日から令和5年2月28日まで、通年春季調査期間は令和5年3月1日から令和5年5月31日まで、特別観測春季調査期間は令和5年5月18日から令和5年5月24日までの7日間です。

1-4 調査機関は一般財団法人日本気象協会です。

1-5 調査項目及び測定方法ですが、調査項目に関し紹介します。気象項目は風向・風速、大気質項目は二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素。データ監視として、定時を1日2回、その他に随時実施しております。

2 ページは 調査地点図になります。

続きまして3 ページをご覧ください。第2章調査結果を報告させていただきます。風向・風速、通年観測調査は冬季について説明させていただきます。出現の多い風向と頻度では、西北西からの風 14.8%、西からの風 14.2%、北西からの風 13.0%、環境センターが位置する北からの風の頻度は 5.8%でした。平均風速は毎秒 1.8mで、最大風速は1月24日15時に西からの風、毎秒 8.7mを観測しました。春季、年間の調査結果につきましては表中に記載された通りです。

続きまして、風向・風速特別観測調査について報告させていただきます。期間中の気温、湿度については、環境センター地点で平均気温 20.5℃、平均湿度は 68%でした。風向・風速につきましては、野口地点で説明させていただきます。出現の多い風向と頻度では、西北西からの風が 12.5%、西からの風が 11.9%、北西からの風が 10.7%でした。環境センター方向からの風の頻度は、北からの風が 7.7%を観測し、平均風速は毎秒 2.0mで、最大風速につきましては5月24日の15時に西からの風が毎秒 6.1mを観測しました。ほか、林地点、大山地点、環境センター地点の測定結果につきましては表中に記載された通りです。

続きまして4 ページをご覧ください。環境濃度（通年観測・特別観測）につきましては、通年観測野口地点で説明させていただきます。二酸化硫黄の冬季、春季、年間の最高値は共に 0.002ppm、二酸化窒素の冬季、年間の最高値は共に 0.019ppm、春季の最高値は 0.017ppm、浮遊粒子状物質の冬季の最高値は 0.027mg/m<sup>3</sup>、春季の最高値は 0.044mg/m<sup>3</sup>、年間の最高値は 0.056mg/m<sup>3</sup>、塩化水素の冬季の最高値は 0.001ppm 未満、春

季、年間の最高値は共に 0.001ppm、特別観測につきましては表中に記載された通りです。

5 ページは、特別観測全日データ（春季）の調査地点での風向風速を表した図であり、6 ページは風向別出現頻度及び平均風速、特別観測全日データ（春季）の表になります。

続きまして資料3 調整池からの排水調査報告書をご覧ください。

1 ページ、第1章調査概要の1-1 目的、1-2 調査地点につきましては変更ありません。1-3 調査日は令和5年5月23日になります。

1-4 調査項目及び調査方法につきましては表1-1 に示す通りです。

2 ページは調査地点図になります。

3 ページをご覧ください。第2章調査結果を報告させていただきます。

水素イオン濃度はPH 9.1、生物化学的酸素要求量は4.9mg/L、化学的酸素要求量は7.7mg/L、溶存酸素量は11mg/L、浮遊物質量は1.0mg/L未満でありました。調整池のPH変動については、平成27年から観察を続けております。天候、水温、日照など藻の成長が活発化する条件が良くなりますと昼間は光合成により水中の二酸化炭素が植物にとり込まれPHは上昇する傾向にあります。このような条件により、5月23日のPHも一時的に上昇傾向であったと思われれます。その後、自主測定を行っておりまして、5月31日につきましてはPH 8.02、6月5日につきましてはPH 8.26まで下がった状況を確認しております。

以上で、議題2 令和5年冬季、春季気象調査について、議題3 調整池からの排水調査についての報告を終わります。

井上委員長：ありがとうございました。事務局の説明は終わりました。これについてご質問はありませんか。

井上委員長：よろしいですか。なければ、議題2及び議題3については、終了させていただきます。

続きまして「その他」について、事務局から何かありますか。

櫻井総務課長：それでは事務局より1件ご連絡いたします。次回の管理委員会の開催時期であります。来年2月上旬を予定しております。開催日時が決定次第、皆様にご連絡させていただきますのでよろしくお願い致します。事務局からは以上であります。

井上委員長：ほかに何かありませんか。なければ、本日予定しておりました議

事を終了します。これをもちまして、「令和5年度小牧岩倉衛生組合環境センター管理委員会第1回定例会」を閉会いたします。本日は、お疲れ様でした。